

とうきょう すくわくプログラム活動報告書！

学校法人二葉学園
幼保連携型認定こども園葛飾二葉幼稚園
東京都葛飾区金町 2-19-6

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「日常的な動物との触れ合い」

<テーマの設定理由>

子どもたちにとって、身近な環境で動物と触れ合う・飼育する機会が減少している。動物との触れ合いは、動物たちの動作や表情、そしてそれぞれ動物の特性の違いに気づいたり、ミニチュアホース、マイクロブタ、ウサギ、モルモット、魚と触れ合う（飼育含む）ことによって、愛情飼育、情操教育はもちろん、生き物、食生活の不思議、そして生きること（生命）に対する興味関心を広げる。その興味関心は、主体的な活動につながり、動物との触れ合いによって、友だち関係が築けたり広がったり、5領域、10の姿に深く関係する。

2. 活動スケジュール

年間を通して、日々の日常に動物との触れ合える機会を創出すること。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ミニ牧場や動物小屋、動物を施設内で移動できる木柵などの囲い（触れ合えるコーナーなど）。

動物の好きな雑草を生やすなど。

飼料（エサ）。獣医、獣医（歯科医）、装蹄師などの定期的な来園（診察）等。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

グループに分かれて、動物たちの餌やりやブラッシングや糞の片付け、動物小屋の掃除を行い、子どもたち自身が「何を食べるの？どんな草が好きなの？どんなウンチをするの？」と自らの問いに気づいて、それぞれの気づきを共有しながら活動を行うことにより、動物を介しての新たな関係性が生まれることを促した。

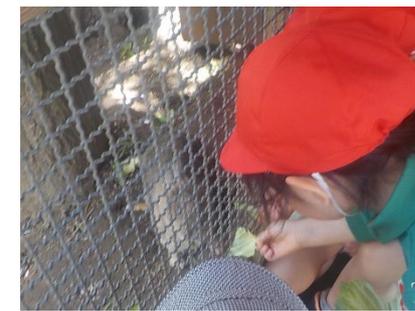
<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

エサをあげたり、糞の掃除をする中で、

「なぜ糞の大きさ、形、色、匂いなどが違うのだろうか？」の気づきや、「食べるものが違うから！」「牧草やペレットのほかに好きなものはなんだろう？」「園庭の草をあげてみよう！」「食べる草、食べない草がある！」「動物のよって好みが違う！」「食べる草と食べない草を分けてみよう！」などと自然と子ども同士が発見や疑問を伝え合い、それを試す姿が見られた。

保育者は、動物が主人公の絵本を読んだり、動物や植物の図鑑を保育室に置いたり、いつでも目に触れる環境をつくる。

また、動物たちの好きな草の特徴を、実際に園庭などで採集して、興味を引き出す関りを持つ。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

同じ動物との触れ合いであっても、子どもたちの興味関心は、姿（顔、足、爪、歯、毛並み）動き（走り方）、泣き声、糞、寝方、好きな食物、その日の様子（機嫌）など、子どもによって、動物との接点（興味関心）は様々であること。その子その子にとっての発見や疑問を受け止め、言語化してクラスみんなに共有することで、より子どもたちが主体的に動物に関われるようになったこと。

また、この活動を通して、あるいは動物を介在して、新たな友だち関係も生まれたり、広がったりする姿も見られた。